

監督会議資料(具 体)

令和3年5月22日(土)

時 間：8：20～

場 所：大会議室(各校1名)

1. 選手変更及びミスプリントについて

2. 競技規則について

- (1) ルールは、現行の日本卓球ルールを適用する。
- (2) 接着剤の使用は、所定のラバー貼替所(1Fの体育館南入口)でのみ許可する。
- (3) 学校対抗戦ならびに個人戦ダブルスにおいては、ユニフォームを統一すること。
- (4) タイムアウトは、学校対抗は準々決勝、シングルスはベスト16決定、ダブルスはベスト8決定より適用する。※四国総体代表決定戦からの適用とする
- (5) アドバイザー(別紙)については、要項に記載している規定を遵守すること。
- (6) 新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインを遵守し、特別ルールを適用する。
以下の点について、生徒へ連絡をする。
 - ・応援は拍手のみとする(観客席含む)。また、選手も大声を出さない。
 - ・ラケット交換は見せ合う形で行う。 ・試合後の握手はしない。礼のみとする。
 - ・チェンジエンド(コートチェンジ)はしない。
 - ・卓球台の上で手を拭くことはしない。(6ポイント以外に遅延行為にならない範囲でのタオルの使用を認める) ・シューズの裏で手を拭くことはしない。
 - ・競技者以外はマスクを着用する。また、設置されているアルコール消毒液でこまめに手指消毒をするよう心掛ける。

3. 競技の進行について

- (1) 22日(土)学校対抗決勝トーナメント → 学校対抗決勝まで
※ただし、ダブルスは11:00より試合可能などから入れていく。決勝トーナメントと並行して入れていく場合もある。(ダブルス最終コール15:00予定、ベスト4決定を目標)
※試合の進行が遅れている状況の場合、予備コート(サブアリーナ)で試合を進める場合もある。
23日(日)ダブルス・シングルス決勝まで
- (2) 学校対抗戦は2コートを使用する。
- (3) 試合は全て3点先取とする。
- (4) 学校対抗戦のベンチは、番号の若いチームが本部に向かって右側とする。ただし、続けて試合が入るときには、この限りでない。
- (5) オーダー用紙の提出について
決勝戦のみ本部席へオーダー用紙を提出する。
- (6) 23日(日)の朝は、競技に先立って学校対抗の部の表彰を放送で行う(8時50分)。

4. 審判について

- (1) 学校対抗の部
決勝トーナメント1回戦は相互審判で、以後は敗者審判とし決勝戦主審は外部審判員が行い、副審を準決勝で敗れたチームが行う。
- (2) 個人戦の部
 - ①各コートの第1試合は、相互審判で行い、その後は敗者審判とする。
 - ②勝者は、試合結果を進行席へ報告し、敗者はコートに残って次の試合の審判を行う。
 - ③Dは準決勝から、Sは準々決勝から外部審判員が行う。ただし、敗者は副審をする。

5. その他

- (1) 練習について ●5/22(土)・5/23(日)8:00～8:25(前半)

土佐女・土佐・学芸・高知・土佐塾・追手前・丸の内・小津・西・国際
高知工・高知農・東工・高知商・東

- 5/22(土)・5/23(日)8:25～8:50(後半)

明德・高専・室戸・安芸・嶺北・伊野商・岡豊・佐川・須崎総・窪川
中村・清水・西土佐・桜ヶ丘・宿毛・宿毛工

※各校譲り合って使用すること。(クロス練習可)

※サブアリーナの使用も可能とする。割り当て時間の中で使用すること。(前半・後半)
割り当て練習後は使用禁止とする。(練習会場としては開放しない)

- (2) 試合進行に協力すること。(試合の打ち切り、棄権等になる場合もあります。)
- ①試合前の練習1分②ベンチコーチ1分 ③コール後5分以内に試合開始
④試合後速やかに勝者は本部へ結果報告
- (3) 開始式(22日8時55分)は、放送により行う。選手は練習後フロアに座るか観客席へ移動して参加すること。ただし、観客席では1席以上空けて座るようにする。
- (4) 貴重品の管理、ゴミの処理、上下靴の区別は、各校で責任をもって行うこと。
- (5) 体育館の開場は、22日・23日ともに7時50分。
- (6) ベンチコーチは、団体戦、個人戦共に1名のみとし、途中交代は認めない。ただし、同一のアドバイザーであれば何度でも出入り可能。
ベンチコーチは、当該高校部員(男女を問わない)＋監督(学校対抗)＋アドバイザー2名(男女別に)を認める。(学校対抗監督は役職者章着用、アドバイザーは許可証着用)
- (7) コートサイドでのビデオ撮影は、本人及びチームの試合のみ認める。
観客席からの撮影は制約しない。
- (8) 上位大会への参加について
- ①四国大会 団体4、ダブルス8、シングルス16
②インターハイ 団体1、ダブルス2、シングルス4
③全国高体連卓球専門部90周年事業で、県体団体2位校は四国ブロック大会へ参加できる。
四国総体の前日にトーナメント方式で四国より1チームを追加代表校とする。
上記大会へ出場が決まり次第、要項を配布する。
- ※エントリー順位について
県体の成績を優先する。同ポイントの場合は、前年度冬季大会並びに当年度春季大会のポイント(どちらか)の高い方を上位とする。これも同点の場合は抽選とする。
- (9) ラケット検査について
適宜ランダムに行う。
- (10) シングルスベスト4の選手は、国体1次予選(7/10県民体育館)を免除され2次予選へ出場できる。尚、1次予選を免除された選手は、2次予選に出場することを願い出ること。国体2次予選(7/11県民)は、県体ベスト4＋1次予選ベスト4(＋ふるさと選手)の計8(9)名でリーグ戦を行う。
- (11) 選手のアップ場については、組合せやコールを参考に適宜活用し、進行に協力して下さい。ただし、応援やアドバイスは禁止とする。
- (12) 表彰
団体、ダブルス、シングルの1位～3位を表彰する。
団体優勝校から男女各1名に殊勲賞を与える。
団体準優勝校から男女各1名に敢闘賞を与える。
団体優勝校、準優勝校以外から、団体または個人戦において活躍した選手に優秀選手賞を男女各2名に与える。
- (13) 学校対抗戦の試合方法の変更について(報告)
県総体要項には「学校対抗戦では予選リーグを行い」と明記されておりましたが、新型コロナウイルス感染症対策の一環としまして、生徒を含む関係者の体育館内の滞在時間の短縮を図るためにトーナメント方式に切り替えをいたしました。よって、敗戦校・選手は速やかに帰るようにしてください。
- (14) ダブルスのシード数について(報告)
昨年、新人戦ダブルス種目をコロナ感染症のことで未実施だったため、今年度の春季大会の結果だけでは、8シードを埋めることができませんでした。ガイドブックP49ページの高体連規定では、8シードまでと記載されており、本来であればシードが埋まらない場合はフリー抽選になるところですが、運営委員会で審議した結果、春季大会のベスト16から繰り上げて抽選をさせていただきました。教育的な配慮も含めての判断ですのでご理解ください。
- (15) 新型コロナウイルス感染症対策について
本大会は、新型コロナウイルス感染症対策を講じた運営をしていきます。大会前の健康観察をしっかりと行い、その期間中に配布された簡易検査キットを用いて、健康状態を必ず把握してください。簡易検査キットの検査結果で、陰性結果が出た選手ならびに大会関係者の入場を認めます。室内競技でクラスターが発生したことを受けた取り組みになりますので、ご協力よろしくお願いいたします。
※簡易検査キットで陽性反応⇒医療機関でPCR検査⇒陰性⇒大会出場可
陽性⇒大会欠場(濃厚接触者等は保健所の判断とします)